

かきのきょう
柿木町

田園風景を残す柿木町は、市の北東部に位置し、東に流れる中川の自然堤防上に集落が形成されている。町内には柿木公民館、市民温水プール、そうか公園などの公共施設がある。永禄年間（1558～1570）以前の創建とされる東漸院や経塚、女体神社などの文化財も多い。平安時代の末期に源頼義、義家父子の奥州征伐の軍勢がこの地を通ったとの言い伝えも残されている。

市内でも豊かな自然に恵まれた地域だが、近年、町内を南北に横断する東埼玉道路の開通や隣接する越谷市に新たなJR武蔵野線の駅が完成するなど、転換期を迎えている。

地名については、柿の古木が生えていたからという説のほかに、集落が川沿いの自然堤防上に形成されているからという説がある。川と自然堤防の境は崖。崖の際につくられたところ、「ガケノキワ」が「カキノキ」に変化したというもの。いずれの説にしても、中世末期には柿木川戸と呼ばれていた。

〈昭和62年9月5日号〉

□柿木公民館 経塚 市民温水プール そうか公園 東漸院 中川 女体神社 東埼玉道路

がくえんちよう
学園町

市の中央部に位置する。現町名は、1987（昭和62）年4月1日の住居表示施行によるもので、獨協大学があることに由来する。それまでは、1958（昭和33）年11月1日の市制施行により定められた栄町と花栗町であり、一面に水田が広がる地域だった。昭和初期までは、それぞれ草加町大字北草加字中耕地、安行村（1955（昭和30）年4月草加町に編入）大字花栗字東と呼ばれていた。1964（昭和39）年には、獨協大学が栄町と花栗町の一部を大学の敷地とし開校した。

獨協大学は1988（昭和63）年に制定された「第1回草加市まちなみ景観賞」に選ばれるなど、学園都市・草加の顔でもある。

〈平成2年1月20日号〉

□安行村 栄町 住居表示整備事業 獨協大学 花栗 まちなみ景観賞

かさいようすい
葛西用水

市東部を南北に貫流する用水路。行田市の利根大堰から引水し、市をへて足立区へと流れる。1719（享保4）年、埼玉県東部の水田かんがいのために造られた。市内では青柳か

ら稲荷を流れ、延長3.5km。かつては水田を潤していたが、都市化によりその役割は市民の憩いの場に変化している。コイ、フナ、タナゴなどが生息する絶好の釣り場であるほか、全国でも珍しいキタミソウが自生。青柳新橋周辺には1.3kmの桜並木があり、春の花、夏の木陰など四季折々の風景を市民に提供している。

市では、葛西用水路利用整備計画を策定し、1989（平成元）年度から水と緑を生かした市民に親しまれる水辺空間として再生を図っている。整備区域を3つに分け、1989（平成

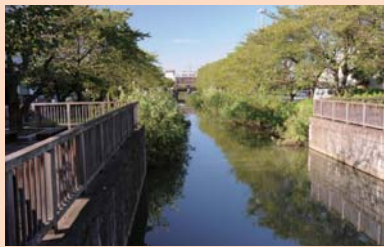
元）から2004（平成16）年に桜並木ゾーン、青柳堰ゾーンを整備した。稲荷橋から緑橋までの区間は親水公園として整備され、約370本のソメイヨシノが並ぶ名所となっている。2005（平成17）年度からは2015（平成27）年度完成を目標に久伊豆ゾーンを整備している。整備費は、桜並木ゾーンが8億2100万円、青柳堰ゾーンが4億3900万円、久伊豆ゾーンが2007（平成19）年度現在5700万円。

〈平成2年5月20日号〉

□桜スポット 親水公園



久伊豆ゾーン



青柳堰ゾーン



桜並木ゾーン

かし
河岸

舟の荷を積み下ろす場所。かつての草加市には、綾瀬川沿いの藤助河岸、札場河岸、魚屋河岸、高瀬河岸、二ツ橋河岸のほか、中川沿いには、音店河岸などがあった。1630（寛永7）年の草加宿開設から10年ほど後に綾瀬川の改修が完成し、幕府より魚屋河岸と藤助河岸の開設が認められた。

明治20年代までの綾瀬川は、主に東京の中川放水路との合流地点から柏崎村（現・さいたま市岩槻区）の妙見河岸まで舟が運航していた。

■魚屋河岸 最も規模が大きかった河岸。旧手代橋際にあった。手代河岸、佐五兵衛河岸ともいい、公認の河岸。ここから江戸まで舟路4里（16km）だった。

■藤助河岸 越谷市との境界付近にあった。新田地区の米の輸送に利用された。

■札場河岸 神明二丁目にあった。現在、河岸場の石組みが復元され、公園として整備されている。

■音店河岸 古利根川（中川）にあった、川への落とし（排水路）を利用した河岸。明治の後半まで栄え、渡し舟なども発着していたが、河川改修による水位の低下で廃止された。河岸場をしのぼせる石組みが今も残る。

〈通史編上P581～・通史編下P177～・平成元年11月20日号〉

□綾瀬川 舟運 札場河岸公園

かしたそうごろう
柏戸宗五郎

〔1767（明和4）年～1818（文化15）年〕江戸後期に活躍した草加出身の力士。生まれは武州篠葉村（弁天）、本名は大久保清五郎。幼少のころから体が大きく、怪力の持ち主であった。武州埼玉郡柏戸村（北川辺町）出身で初代「柏戸」を名乗った三代目伊勢の海に入門。滝ノ音清五郎を名乗り、1786（天明6）年序ノ口、

1792（寛政4）年幕下三枚目となり、名を宗五郎と改めた。1795（寛政7）年に三代目柏戸を襲名、泉（福島県）藩主本多越中守のお抱え力士となった。1804（文化元）年10月場所（本所回向院）で、小結・柏戸は4年間無敗の大関・雷電に土をつけ、うれし泣きしたという。その功により、翌1805（文化2）年2月場所（芝神明）から関脇に昇進、1808（文化5）年、42歳にして大関に。当時は、横綱の位はなく大関が最高位だった。

大関2年目の1810（文化7）年10月7日、8日には郷里の草加で相撲興行をした記録がある。大関在位は5年間、9場所動めて、成績は58勝10敗4引き分けだった。

46歳で引退し、伊勢ノ海の名跡を4代目として継承。52歳で生涯を閉じた。

〈昭和61年4月20日号・昭和61年5月5日号・平成元年12月5日号〉

□追手風部屋 大相撲草加場所



写真提供：香山警棍（複製禁止）

かせんじようかしせつ
河川浄化施設

河川の水質改善を図ることを目的に市内には5か所の河川浄化施設がある。谷古田用水浄化施設（処理量500m³/日、1996（平成8）年4月）、